

ドイトウン・コーヒー

コーヒーを貧困削減とどう結び付けるか

タイの最北端、ミャンマーとラオスと国境を接する山岳地域は、かつては「ゴールドトライアングル(黄金の三角地帯)」と呼ばれ、アヘンの原料となるケシが栽培される危険な地域であり、1980年代までは外国人がその地域に入ることはできなかった。人々は貧しく、困難な状況に置かれていた。そこで、アヘンへの依存から脱却するために、タイ王室のメーファールアン財団はドイトウン・プロジェクトを立ち上げ、コーヒーの木の栽培を奨励してきた。それから30年、ドイトウン・コーヒーの品質は向上し、日本でも知られるようになった。東京大学コミュニケーションセンター(UTCC)でもドイトウン・コーヒーを販売してきたが、2018年11月よりペットボトル入りの新商品が発売されている。

本セミナーでは、ドイトウン・コーヒーの背景や仕組みを解説し、その支援の在り方について考えてみたい。

ドイトウン・コーヒーの試飲とともに、同じくUTCCで販売されているハラルチョコレート(Hanan Chocolate)も試食していただきます。

日時:2018年12月20日(木) 17:00~18:00

発表テーマ:「ドイトウン・コーヒー:コーヒーを貧困削減とどう結び付けるか」

発表者: 池本幸生(東京大学東洋文化研究所 教授)

場所: 東京大学 東洋文化研究所 1階 ロビー

